

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New23号 2006年11月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 『気づきと行動を結ぶ女性情報』 尾川 洋子	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(14)
編集長の著者インタビュー 『現代韓国と女性』の著者 春木育美さんに聞く	(15)
HOT・FILE	(15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (8・9・10月)	(16)
Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

気づきと行動を結ぶ女性情報

大学図書館員だった私が1970年代中頃から30年近く、女のミニコミ、女の本、女性情報に関心を持ち続け、女性情報ライブラリーづくりを自分のライフワークとしてきたのは何故だったのか、60歳を目前にした今、考えてみる。シンブルな答えが一つ、それは女性と女性たちが作りだす情報(女から女たちへ)が結ばれた時、新しい力が生まれてくることに気づいたから、そして何よりも私自身がその力を自分の生きる活力源にしてきたから、である。

今年7月、中西豊子さんの『女の本屋の物語』(ウイメンズブックスストアゆう)が出版された。中西さんの“物語”には、1970年代後半から80年代、90年代、悩み、怒り、模索しながら行動を始めた日本の女性たちの姿が等身大に描かれている。読めば、一人の人間としての自分に気づいた女性たちが、やむにやまれぬ思いで、社会へ向けて自らの思い、女性問題を発信し、そして共感・連帯しあひながら、さらに新しい行動(情報)を作りだしていった循環が手にとるようにわかる。女性たちが発信する情報は“循環”の中で進化し、気づきを行動へと結ぶ触媒のような役割を果たしてきた。私はそれが女性情報の真髄であると思っている。

情報が女性の地位の向上と深く関わることは、国連の1975年国際女性年「世界行動計画」でも認識され、以来、各国の女性政策の中にも「女性に関わる情報の整備」「女性に対する情報の提供」「女性とメディア」等、入れられるようになってきた。情報活動と女性の地位の関係については、国立女性教育会館で2003年に開催された女性情報国際フォーラム「女性情報のグローバルなネットワークをめざし

人と情報を結ぶ WEプロデュース

尾川 洋子



て～女性情報によるエンパワーメント戦略の展望と提言」の中で、情報学研究ホープ・オルソン(ウイメンズシン大学教授)が提起した5段階の整理がわかりやすい。

- ①女性が情報を得ること、発信することができない段階
- ②一部の女性が名目的、お飾りの地位を得て情報発信できる段階
- ③女性の地位に関する問題を社会的に明らかにしていく段階

- ④女性の参画を前面に押し出していく段階

- ⑤社会を変革し、男女平等社会の新しい枠組みを作っていく段階

女性情報活動が女性の権獲得や地位の向上と連動すると共に、男女共同参画社会という新しいパラダイムを創り出す活動へつながることが展覧できる。

1980年代から2000年代にかけて、女性と情報を結ぶ「場」は日本で初のウイメンズ・ブックスストアの誕生、全国各地に350余の女性／男女共同参画センター、女性たちのネットワーク、女性情報ポータルサイト等、大きな進展があった。私は今、必要なのは「場」を活用し、女性と情報を“結ぶ人”の専門性を開発することだと思っている。

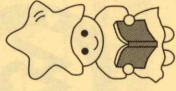
ささやかな活動だが、2004年に立ち上げた「人と情報を結ぶWEプロデュース」で、ライブラリー・マネジメント・ゼミナール、公的施設・公務職場で働く人のためのスキルUP&元気UPセミナーを始めたところである。

最新刊情報

フェミニズム・女性学……(2)
労働・仕事……(3)
法律・政治・政策……(4)
家庭・家族・衣食住……(4)
子育て・教育……(5)
こころ・癒し……(6)

からだ……(7)
セクハラ・暴力……(8)
セクシュアリティ……(9)
文学・エッセイ・芸術……(10)
女性史・歴史……(11)
資料……(11)

自伝・評伝……(12)
平和・開発・エコロジー……(12)
雑誌……(12)
高齢・福祉……(13)
絵本・こども・青少年……(13)



(フェミニズム・女性学)

「ジェンダー」の危機を超える！ 徹底討論！バックラッシュ

若桑みどり 加藤孝一 皆川満寿美 赤石千衣子/編著
青弓社 2006年8月 1680円



3月25日に東京で開催された「ジェンダー概念を話しあうシンポジウム」の記録を中心に編まれた。ジェンダーフリー・バックラッシュに対して連携して反撃していかうという気運が高まる契機となったシンポジウムである。会場の熱気が伝わってくる。

イスラームにおける女性とジェンダー
近代論争の歴史的根源

ライラ・アハメド/著 林正雄 岡真理
本合陽 熊谷滋子 森野和弥/訳
法政大学出版会 2006年9月 4725円
中東スリム社会のジェンダーが、どのように作り上げられたのかを論述している。論述は、イスラム以前の中東世界の女性の社会的地位の記述からヴェールに関する言説、未来の展望まで及び、深い。

ジェンダー平等の経済学 男女の発達を担う福祉国家へ

二宮厚美/著 新日本出版社 2006年10月 2520円
バックラッシュ派、新自由主義派、ジェンダー・エクイティ派(平等)派の三流派にわかれ対抗関係にある、現代日本のジェンダーを巡る動き。本書では、その対抗関係の意味を探り、整理し、新自由主義が掲げる市場原理と対峙しつつ、ジェンダー平等を担う福祉国家を展望しようとしている。400頁近い大著であるが、明快な論理が展開されており、読みやすくかつ納得できる。



女を幸せにしない「男女共同参画社会」

山下悦子/著 洋泉社 2006年7月 819円
少子化をさらに促進させ、「女・女格差」を広げ、「1億総働きバチ社会」をつくるのが「男女共同参画社会」だという。著者は主婦をフッの女性のセイフティネットであるところから、男女共同参画は、女性のセイフティネットを壊すから女性を幸せにしない、と説くのだが、……。

ジェンダーと少子化社会 ジェンダーと法 No.3

ジェンダー法学会/編 日本加除出版
2006年7月 3150円
2005年11月に開催されたジェンダー法学会第3回学術大会の記録が中心。第I部：男女共同参画政策の検証 第II部：少子化社会のジェンダー法学的分析



女性白書2006



日本婦人団体連合会/編 ほるぷ出版
2006年8月 3360円

日本婦人団体連合会が毎年出している『女性白書』。今年もできました。今年の特集は「格差社会と女性」。各論者が、データを駆使して、格差少子化社会における女性と労働・教育・社会保障を世界の視点も交えて論じている。

インパクトゾーン 154

インパクト出版会/編集 インパクト出版会
2006年10月 1260円



今号の特集は「反撃するフェミニズム」。日本経済における「失われた十年」は、フェミニズムに「苦悩の十年」を強い、ことになったと分析(海妻径子)。ネオリベリズムへの「反撃」を試みている。「分析」にとどまらず、運動実践の「反撃」が必要だと。他に木村涼子、伊藤公雄、大橋由香子、青山薫、伊田久美子など。先鋭な論調がそろっているのが本書の特色。

女たちの共同体 七〇年代ウーマンリブを再読する

西村光子/著 社会評論社 2006年11月 1785円



60年末から70年代にかけて、鮮烈に登場したウーマンリブの拠点は、全国各地に生まれた、リブ・コレクティブ。30年たった現代の視点にたつて、そのコレクティブハウスを中心に、ウーマンリブの再読を試みたのが本書である。その昔、リブに熱い思いを抱きながら、仕事に育児に活動にあけくれ「ひきさかれていた」著者が、30年たつて学び直し、考察した。

ジェンダー・バックラッシュを超えて No.107

労働教育センター編集部/編

労働教育センター 2006年5月 1860円
Part1: ジェンダー・バックラッシュを検証する
Part2: いま、なぜジェンダーの視点が必要か
Part3: ジェンダー平等をすすめる。ジェンダーバックラッシュに対抗する視点・姿勢を現場でつくっていくという特集。実践報告が豊富で読みやすい。



フェミニズムのための哲学

ヘルタ・ナーグル=ドツェカル/著 平野英一/訳
青木書店 2006年8月 4935円
「フェミニズム哲学」とは「女性の解放に関心をもつことを導きにして哲学すること」。人間学、芸術、理性等について、フェミニズムの立場から、解明しようとしている。

恋愛結婚の成立 近世ヨーロッパにおける女性観の変容

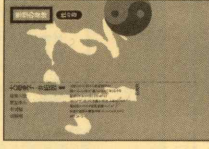
前野みち子/著 名古屋大学出版会
2006年10月 5880円

近世の北ヨーロッパにおける恋愛結婚の成立過程を追っている。17世紀オランダ風俗画や恋の民衆歌などを題材とした、興味深い緻密な「恋愛結婚考」である。



性の巻 思想の身体

大越愛子 井桁碧/編著
春秋社 2006年10月 2100円
現代人にとって身近でありかつ人間生活の全体に関わるものとして日本の思想文化、精神文化をとらえるシリーズ(「はしがき」よりの第一巻)「<女>とは何か」(大越愛子)「<私>に」とって男とは何か」(森岡正博)他、井桁碧、岡野浩子の論文と座論が並ぶ。



ジェンダーで読む 愛・性・家族

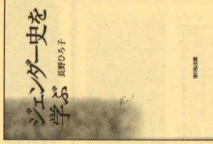
岩淵宏子 長谷川啓/編 東京堂出版
2006年10月 2310円
愛、性、家族、性暴力をテーマとした近現代小説を時代順に配列して解説している。いずれも現代人に最も関心の深いテーマ。恋愛、性愛、婚外恋愛、セックス、DV、ポストファランジャーなどのジャンルにした作品を時代順に読むと、文学のジャンルにジェンダーのテーマ別視点が大きくくかかわっている状況が一眺できる。



ジェンダー史を学ぶ

長野ひろ子/著 吉川弘文館
2006年11月 2625円

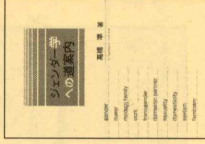
「第一部：ジェンダー史への歩み」では、日本の歴史学にジェンダー概念が導入される道筋と困難を論じ、「第二部：ジェンダー史の論述」では、江戸時代から明治維新に至るトピックス3つに光をあて、歴史のジェンダー分析を試みている。



ジェンダー学への道案内

高橋準/著 北樹出版
2006年10月 2100円

ジェンダー学を初めて学ぼうという人のためのガイドブック。ジェンダーとは何かに始まり、フェミニズムの思想と歴史、家族、労働、セクシュアリティなど、ひととおりに知ることができる。



「ジェンダー論」の教え方ガイド 女子大生のための性教育とエンパワメント

沼崎一郎/著 (有)フェミックス
2006年11月 1260円

女子大学でジェンダー論を教える著者の「教え方ガイド」。女性への暴力、セクシュアリティのテーマを軸に、「ジェンダー論講義」の展開方法を呈示している。大学の教室という現場での試行錯誤は、大変興味深くタメになる。



(労働・仕事)

サラリーウーマン幸せ研究所 WORK編

小林由紀子+日経WOMAN/編 日本経済新聞社
2006年9月 1470円

『日経WOMAN』で連載されていた「サラリーウーマン幸せ研究所」の記事のピックアップ。相談者と解答者が対話して悩みの背景を描出していくスタイルをとる。仕事の悩みは普遍的かつ個別的。先輩が後輩の相談にのるこの方法は有効かも。



理系に行こう！ 女子中高生のための理系案内

都河明子/著 (INWES Japan協力) 九天社
2006年8月 1890円

「男性は理系、女性は文系」とは、一体誰が決めたのだらう。理系の能力は、「性別より個別」であることは証明済み。女子中高生より！ジェンダーの縛りを絶って、理系に進もう。巻末には、理系職業の紹介がついていて、将来設計に役立つ。INWESとは、「国際女性技術者、科学者ネットワーク」のこと。



シゴトのバイブル 入門編

佐々木かをり/著 PHP研究所 2006年6月 1260円
これからシゴトをしようとする人にむけて、20代で起業し、2社の社長となった著者が、ハッピーな働き方を伝授。



ジェンダー型企業社会の終焉 組織論的考察

中野裕治/著 文眞堂 2006年5月 2730円
郵政民営化、ライブドア事件、皇位継承問題でゆれた2005年。これらはジェンダー型企業社会に転換をせまざる出来事であるという。「生産者の論理」から「生活者の論理」に転換せよという主張。

女性企業家・清流美ホップステップウフフな生き方！ ギネスを仕事にした私の夢を実現させるキーワード

清流美/著 グラフ社 2006年7月 1200円
「ギネス記録申請コンサルティング」という耳慣れない仕事をする会社をたちあげた著者の話。

図解 働く女性の成功ノート ココロを元気にする解法教えます。

久恒啓一/監修 成美堂出版 2006年10月 998円
やりたい仕事が終わらない、産むか産まないか、誰も評価してくれない、給料アップしてもらいたいなど、働くに伴う様々な悩みを「図解」を用いて整理し、スッキリしていくという本。



社労士の仕事がかかる本 改訂第3版

武市淳 宮澤真由美/著 法学書院 2006年8月 1470円
社会保険労務士の実務と試験について解説。

ダイバーシティ・マネジメントの観点からみた企業におけるジェンダー

杉田あけみ/著 学文社 2006年9月 5250円
スウェーデンにおける企業調査やファミリーフレンドリー企業へのアンケート調査、インタビュー調査をもとに、企業におけるジェンダー平等戦略をダイバーシティ・マネジメントの側面からとらえた論考。

明日をみんなのちからで 全労連女性部結成とそのたたかい

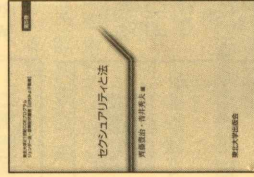
「全労連女性部のあゆみ」編集委員会/編
学習の友社 2006年7月 1600円
全国労働組合総連合(全労連)女性部16年の活動の記録。

女流経営 12の成功物語

安田龍平 木村泰三/編著
メディア総合研究所 2006年9月 1680円
今注目されている12人の女性企業経営者を紹介。「女性の特性、良さを生かし」とあるが、サービス業、IT関係など「軽い分野」での企業が多いことをさすのか。しかしそれぞれにアイデア豊富、エネルギーシユ、ネットワーク力抜群。

〔法律・政治・政策〕

セクスチュアリティと法 東北大学21世紀COEプログラム ジェンダー法・政策研究叢書 第5巻



齊藤豊治 青井秀夫/編
東北大学出版会 2006年3月 2310円
東北大学21世紀COEプログラムの「身体・セクスチュアリティ」の成果をまとめたもの。第一部：セクスチュアリティと生殖をめぐる基礎理論 第二部：性と暴力をめぐる法と政策

NPOが自立する日 行政の下請け化に未来はない

田中弥生/著 日本評論社 2006年10月 2100円



収入の8割以上を行政からの委託費にたよっているNPOを「行政の下請けNPO」である、と著者は厳しい。米国、英国のNPO関連施策に言及しながら、法制度にみる構造的な問題を指摘する。原点に戻ろう、と、「指定管理者になるためのNPO」が男女共同参画の分野でもつくられているが、「自立」をめざして、「制度」にまで切り込んでいってほしい。

14歳からの政治 日本の「これから」がわかる教科書

長谷部尚子/著 コマブリックス 2006年9月 1470円

14歳、中学3年生の女の子が8人の現役政治家にインタビュー。今は首相になった安倍晋三さんや横浜市長の中田宏さん、福島みずほは社民党首など。どんな背景で本ができたのか、書いてないのだからちょっと不思議な感じがする本だが、なかなか読ませる。



法律時報 975号

日本評論社 2006年10月 1400円

特集は「現代家族をめぐる法状況」。「現代家族と国家・ジェンダー」(辻村みよ子)他、植野妙実子、二宮周平、朝倉むつ子など。

参画と協働 理論と実践

兵庫大学附属総合科学研究所/編

神戸新聞総合出版センター 2006年9月 1995円
2年にわたる兵庫大学附属研究所と加古川市による協働に関する研究、公開講座の成果が一冊になった。大学と自治体との2年間にわたる“協働”の成果でもある。



女たちが女性センターの運営に乗り出した！

NPO法人 参画プランニング・いわて/編

ユック舎 2006年8月 1050円

「もりおりおか女性センター」の指定管理者になったNPOのメンバーが、そのいきさつをつづっている。

絵本シリーズ「パパとママが別れたとき・・・」

① パパどこにいるの？ 離婚のお話 1470円

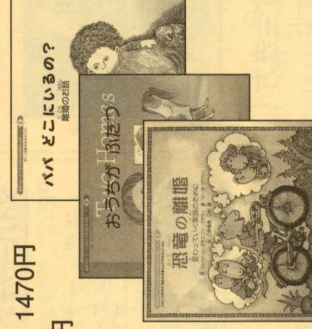
② おうちがふたつ 1680円

③ 恐竜の離婚 変わっていく家族のために 1680円

ベス・ゴフ/文 スーザン・パール/絵

日野智恵 日野健/訳 明石書店 2006年9月

絵本シリーズ「パパとママが別れたとき・・・」の三巻。「離婚しても、パパもママもいつまでもあなたを愛しているよ」というメッセージを送っている。



百年前の家庭生活

湯沢雅彦 中原順子 奥田郁子

佐藤裕紀子/著 クレス出版

2006年8月 1575円



百年前、明治時代後期の日本の家庭生活はどんな風だったのか。家庭のあり方は？ 食生活は？ 医療や衛生は？ 貧富の差は？ 子どもたちは？ 曾祖父母の時代が百年前。近いような遠いような。

親の毒 親の呪縛

岸田秀 原田純/著 大和書房 2006年8月 1680円

完璧な親子、問題のない親子関係などありえない。人はそれぞれに親から「歪み」を受け継いでいる。それを前提に、人はどう成長していくか、いくべきか。

キッパリコン マンガでサクセス！ 女性のための離婚術

新川てるえ/監修 いけだ由果・赤羽美奈/漫画

今回は「就きました」のいきさつであるが、その後の話も聞きたい。

判例を教材にして考える女性の人權

花岡明正/著 アルタイ社 2006年10月 1300円

雇用、DV、離婚、セクハラ等について、判例を用いて、解説。法的解釈というより、「判例」というナマ教材を用いた「女性の人權」についての考察である。

NPOと行政のパートナーシップは成り立つか？ 協働を形にする「事業協働契約」を考える

東京ボランティア・市民活動センター/編

東京ボランティア・市民活動センター

2006年9月 1000円

NPOと行政の対等なパートナーシップに基づき事業展開に関して、「事業協働契約」という新しい契約の形をつくりだしていることと提唱。

ハンナ・アレントの政治理論 人間的な政治を求めて

寺島俊穂/著 ミネルヴァ書房

2006年8月 4725円

20世紀を代表する政治理論家、思想家であるハンナ・アレントの理論を解説。



あおば出版 2006年7月 1260円
マンガでつづるソシニない離婚の方法。

熟年離婚のマネー相談 賢い女性の第2の人生

中島智美/著 ぱる出版 2006年7月 1575円

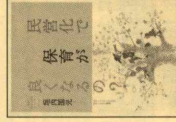
2007年春からの「年金分割」で女性の生き方が変わる？ いずれにせよ、「お金」は現実の問題として重要だ。

民営化で保育が良くなるの? 保育の民営化問題ハンドブック

垣内国光/著 ちいさいなかま社/発行

ひとつなる書房/発売 2006年8月 1260円

保育所民営化問題がとりざたされて、かれこれ10年、民営化で保育所は悪くなっている!! 各地で展開されている運動をふまえ、運動の到達をめざして何ができるのかを整理したのが本書。巻末に民営化問題の相談窓口一覧もついている。



戦後保育所づくり運動史 「ポストの数ほど保育所を」の時代

橋本宏子/著 ひとつなる書房 2006年7月 3150円

1960年代の保育運動に主体的・中心的にかかわった著者が当時の記録や資料をまとめた。「ポストの数ほど保育所を」の運動のうねりが再現されている。

地域で子育て 地域全体で子育て家庭を支えるために

渡辺顕一郎/編著

川島書店 2006年7月 1650円

子育て、子育てを地域でどう支えていくか。保育所、児童福祉施設、NPO等を拠点として子育て支援にとりくんでいる4人の研究者、実践者が、具体的に論じている。



キレない親になる8つのレッスン

ボニー・ハリス/著 大須賀典子/訳

徳間書店 2006年8月 1680円

子どもとぶつかった時の「キレ方」によって、親を8つのタイプに分類、それぞれのタイプごとに対処法を伝授。「従わない子こそ、わたしたちの先生」だと説いている。

[こころ・癒し]

スクールカウンセリング モデル100例 読み取る。支える。現場の工夫



かしまえりこ 神田橋條治/著

創元社 2006年9月 3360円

学校にスクールカウンセラーを配置する施策は着々と進んでいるようだが、スクールカウンセリング方法論はまだ揺籃期。現場で充分に働ける人材も不足しているようだ。現場での発想を導くために、本書では100のモデルを用意し、考察を加えている。良質な事例研究の書。

アディクションと家族 Vol.23 No.2

家族機能研究所/編 ヘルスワーク協会 2006年8月 1680円

特集は、「心理テストをテストする」。村上宣寛、中村としのりなど。

こころの科学 No.129

岡崎裕司 青木省三 宮岡等/監修

日本評論社 2006年9月 1200円

特別企画は「PTSD-ストレスとこころ」。加藤進昌 加藤忠史 小西聖子など。

こじれない人間関係のレッスン

八巻香織 ティーンズポスト/編

太田次郎社エディタス 2006年9月 1575円

コミュニケーションがうまくいったら、9割の心配事は片付くのでは? 本書は、7日間のワークショppsスタイルで、コミュニケーション上達術を伝えています。

子どものシグナル 心を護り育てるカウンセリング

山中康裕/著 バジリコ 2006年8月 1680円

微熱が続いたり、夜恐怖症になったり、勉強放棄したり...子ども

よみうり子育て支援団

読売新聞大阪本社 生活情報部/編

ミネラルヴァ書房 2006年10月 1890円

読売新聞社が設立した、健やかな育児をバックアップするための有見相談会「よみうり子育て応援団」。本書は、「応援団」が各地で開催している子育て相談会の記録である。

もうひとつの学校 ここに子どもの声がする

宮原洋一/写真・文 新評論 2006年10月 2100円

1970年代はじめの「もうひとつの学校」。それは、地域社会のぬくもりとともにある子どもたちのコミュニティ。その時代の都内各地の「もうひとつの学校」の様子を、写真と文章で描いている。

父親できてますか? 父親こそ子どもの人生の名コーチ

柳澤厚生/著 磯さやか/イラストレーション

学芸社/発行 星雲社/発売 2006年9月 2100円

信頼関係の厚い父子関係がつかれますように。コーチングの専門家がのべています。

子どもが育つ魔法の言葉 世界中の親が共感した子育ての知恵

ドロシー・ロー・ノルト/著 石井千春/訳

PHP研究所 2006年11月 1050円

ロングセラーの新装版。ビニールカバーがついた文庫型で、持ち運びと保存がしやすくなった。



軽度発達障害と思春期 理解と対応のハンドブック

古辻純一/著 明石書店 2006年10月 2100円

学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害などの軽度発達障害者の思春期に重点をあて、小児科医が解説。

ママと踊ったワルツ アルコール依存症の母親をもった娘たちの癒しの物語



エレノア・アグニニュー シャロン・ロビドー/著

山本幸枝/訳 保健同人社

2006年7月 2000円

アルコール依存症の母親をもった娘たちは、どう振る舞うのだろう。母への愛と恐怖、憎しみ、恥の只中での母娘関係は? 本書は200人以上の「アルコール依存症の母」を持った娘への調査からみえてきた物語。

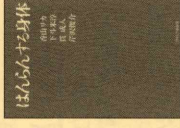
の訴えは体を通して現れる。言葉にならない声を聞き、子どもたちの魂を再生させようと、精神科医の著者は訴える。

はんなりする身体

香山リカ 下斗米淳 貴成人 芹沢俊介/著

専修大学出版会 2006年7月 1890円

現代の若者がかかえる「生きづらさ」。自分であることにリアリティが感じられない感覚。そんな中で、身体は反乱し、氾濫しているという。



こころの格差社会 ぬけがけと嫉妬の現代日本人

海原純子/著 角川書店 2006年6月 720円

格差時代、人々は外的条件による幸せを求めるが、それは危険だと。「自分の心の内にペクトルを向けなさい!と説く。「仮面をはずし、よろいをぬごう」とも。

最新版 女性のうつ病の治し方

税所弘/著 リヨン社/発行

二見書房/発売 2006年9月 1365円

うつ病に悩む女性たちがとりくんだいい12の実践方法を紹介。

ひきこもり その心理と援助

西村秀明/編著 教育史料出版社

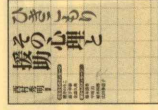
2006年10月 1680円

ひきこもりの背後にある「心の傷」を癒すためにほとうしたらしいか。社会のひきこみを懸命に発信しようとしている青年たちの声に耳を傾けること、と著者。

こころの科学 No.130

飯田順三/編 日本評論社 2006年11月 1200円

特別企画は「習癖異常」・異食・睡眠異常、夜尿などからチック、指しゃぶり、盗みなどなど。それは何なのか、どう対処するかを特集している。



女性のうつ病がわかる本 女性のライフサイクルにあわせてうつ病の悩み・症状を解決

平島奈津子/編著 上島国利/監修

法研 2006年9月 1470円

男性より女性のほうが、うつ病にかかりやすいとか。本書では、女性医師が女性のライフサイクルにあわせて、病状を解説している。

第1章：うつ病への理解を深めよう 第2章：うつ病の治し方 第3章：うつ病の治し方 第4章：うつ病とのつきあい方



【からだ】

女性心身医学

日本女性心身医学会/編 永井書店 2006年7月 8820円

女性と心身医学、心身医学総論からはじまって、女性ホルモン、性と避妊、月経不順等々の婦人科、摂食障害、うつ等の心療内科、職業上のメンタルケア、性差医療、容姿を巡るメンタルケア、メタボリック症候群など、女性に特有の心と身体について、網羅して記述。女性の心身についての基本は、これ一冊で、ほぼカバーできるはず。



性なる医療

大西正夫/著 牧野出版 2006年8月 1680円
人工中絶、不妊治療、同性愛、性機能障害、性的自由、性感染症などなど、本書で取り上げられているのは、現代の最先端をいく「性と生殖」のあれこれである。本書は新聞記者出身の著者の現場レポート。新聞記事ではここまで書けないという。



「性感染症」常識のウソ

林義人/著 日本放送出版協会 2006年7月 735円

性感染症について、不確実な知識に基づく誤解が根深い。正確な知識を身につけ、自分のからだは自分で守ろうと。

わたしのカラダってヘンなの!? 20歳のピキニクニク

板津寿美江 神崎貴子/監修

セブン&アイ出版 2006年8月 780円

若い女性の生理と性の悩みを、イラスト入り解説でわかりやすく解決。

やっぱり子どもがほしい! 産婦人科医の不妊治療体験記

田口早桐/著 集英社インターナショナル

2006年6月 1470円

産婦人科医自身が不妊治療を受けた体験記。医者だけに、医学的裏付けはしっかり。

「35歳からの出産」を選ぶあなたに 自分で決める出産適齢期

古永ゆかり/著 中山摂子/監修

亜紀書房 2006年9月 1680円

「35歳出産リミット説」というものがあるとか。本書の著者は37歳、監修者は44歳で初産。大切なのは実年齢より子宮年齢であるから、「産みたいときに産める体」をスタンバイさせておけば大丈夫という。



最新版 子宮筋腫これで安心 手術する? しない? あなたに最適な治療法ガイド

東館紀子/監修 小学館 2006年9月 1470円

成人女性の5人に1人がもっているといわれる子宮筋腫について解説。迷っていないで、まず知ろう。

月経の研究 女性発達心理学の立場から

川瀬良美/著 川島書店

2006年5月 3885円

月経は女性の特徴。女性の発達を考える時、月経への理解は不可欠である。月経を軽視し偏見を付与する社会は、不平等社会であるといつてよい。



生殖医療の何が問題か

伊藤晴夫/著 緑風出版

2006年11月 1785円

「いのち」の操作はどこまで許されるのか。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題にも直接かわかるこの問題を不妊治療の第一人者がわかり易く解説。代理出産にしろ遺伝子操作にしろ、市民社会の論議が重要なのに、ほとんどもありがっていないとも指摘している。



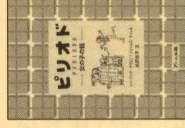
ピリオド 女の子の話

シャローテ・オウエン/作 ジェイムズ・テイレル/絵

北沢杏子/文 アーニ出版

2006年7月 1050円

月経のことを英語でいうとピリオド。もともと「周期」とか「区切り」という意味。この本は、女の子に向けてピリオドのことをわかり易くレクチャーしてくれる。



専門医が答えるQ&A乳がん

中村清吾/著 主婦の友社 2006年9月 1365円

乳がんの発見、治療、再発防止策等を解説。タイプ別体験談も。

はじめての妊娠・出産 安心ブック

東館紀子/監修 ナツメ社 2006年10月 1260円

安心して妊娠し出産するためのガイドブック。妊娠40週のチェックポイントなど。

行き場に悩むあなたの女性外来

天野恵子/編著 亜紀書房 2006年11月 1680円

調子が悪いのだけれど、はつきりせずにくり返す病院遍歴。どうしたらよかったのか。治る手順を「女性外来」の立場から解説。

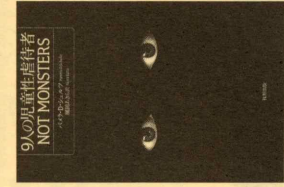
乳がん患者に贈る 愛と勇気の玉手箱

フット隆子/著 同友館 2006年10月 1470円

乳がん患者会「あけぼの会」を設立し、乳がんに関する理解を広め、患者当事者を勇気づけてきた著者の書きためていた原稿が一冊になった。

〔セクハラ・暴力〕

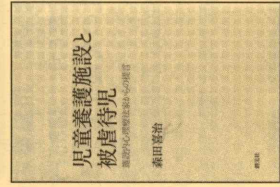
9人の児童性虐待者 NOT MONSTERS



パメラ・D・シュルツ/著 蛸田あきら/訳
牧野出版 2006年8月 2940円

自らも児童性虐待のサバイバーである著者が、長じてから9人の児童性虐待者にインタビュー。なぜ、どのように幼い子どもを餌食にするのかを取材。被害者が加害者に向き合った本として、全米で高い評価を受けたという。

児童養護施設と被虐待児 施設内心理療法家からの提言



森田喜治/著 創元社
2006年9月 2625円

28年間児童養護施設で心理療法士として働いてきた著者が、入所した子どもたちの心理や深層を洞察し、被虐待児を支援するアプローチを提案している。職務上必要な人ばかりでなく、子どもをとりまくいろいろな人に読んでほしい。

幼い娼婦だった私へ

ソマリ・マム/著 高梨ゆうり/訳
文藝春秋 2006年7月 1600円

カンボジアの売春宿に幼くして売られ、強姦され続けた著者。売春産業に果敢な闘いを挑む。著者は、その後、人権活動家になった。トリノ・オリンピックで、アジア女性性の代表として、オリンピック旗を持って入場した人だ。



人はなぜレイプするのか 進化生物学が解き明かす

ランディ・ソーンヒル クレイグ・パーマー/著 望月弘子/訳
青灯社 2006年7月 3360円

レイプという不愉快な現象はなぜおこるのかを“進化生物学”から分析した本。政治的、イデオロギー的、フェミニズム的、社会的アプローチではなく、「進化と適応」の概念から、なぜレイプがおこるのかを論じている。なじみの薄いアプローチだけに、難解かも。しかし、知らずに身につけていたドグマをうち破ってくれる。

子ども虐待防止&対応マニュアル

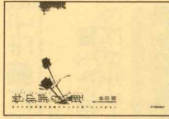
山崎嘉久 前田清 白石淑江/著
診断と治療社 2006年8月 3360円

子ども虐待を発見、予防しうる現場の担当者に向けた、わかりやすい実践マニュアル。虐待を見ついたら、とにかく適切な対応をしなければ。

性犯罪の心理 あなたは性犯罪の実態をどこまで知っているのか？

作田明/著 河出書房新社 2006年9月 1575円

性犯罪を犯す人々の心理がわからないと、犯罪者の矯正・更生を含め犯罪の予防・再犯防止等の手はうてない。しかし、日本では性犯罪者を正確に分析することはなかったと著者はいう。理解せずに排除していけば、犯罪は減少するのではなくその逆である。だれもが被害者になり得る時代、性犯罪を正しく分析してみようという本が本書。

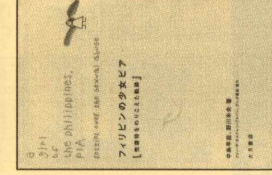


児童虐待 現場からの提言

川崎二三彦/著 岩波書店 2006年8月 777円

児童虐待の背景は深刻で、親を責めるだけでは捉えきれないものである。貧困・福祉行政・社会の変容などの根本的問題に目を向ければ。

フィリピンの少女ピア 性虐待をのりこえた軌跡



中島早苗 2006年8月 1470円
大月書店

両親と暮らしたことがなく、小さい時から性売って生きてきた少女ピアの半生の記録。買売春を“シゴト”としている少女は、世界で120万人いるといわれている。ピアさんは日本のNPOの招きで、この秋来日。若い人々と交流した。

子どもが出会う犯罪と暴力 防犯対策の幻想



森田ゆり/著 日本放送出版協会
2006年9月 777円

「子どもを守る」ために広がる防犯対策。その目は路上の不審者に向くが、子どもが出会う暴力の圧倒的多数は室内で、家族や親しい人から受けるものだという。いたずらに街の不安をあおるのではなく、子どもの発信にしっかりと目を向け、子どもに安心と自信をもたせようと著者はいう。

子ども虐待 今、学校・地域社会は何かができるか

山下英三郎 石井小夜子/編 現代書館
2006年10月 1050円

国民教育文化総合研究所内に設置された、「子どもの側から虐待を考える研究委員会」の報告書をブックレットにまとめ直したものの、最後に「まとめと提言」が附いている。

連鎖する虐待 母が鬼と化すとき

みひろゆう/著 新風舎
2006年10月 1890円

実際の児童虐待の取材をもとに書かれたノンフィクション。新風舎出版特別賞の「凍てついた瞳」を大幅に改稿した新作品。



戦争と性をつめたる旅 「加害者」の立場から

谷口和憲/著 「戦争と性」編集室
2006年10月 1890円

2年間にわたって14カ国のNGO、市民グループを訪ねた記録。テーマは、地域、宗教、文化をこえて共通する「戦争と性」。訪問の旅を終えた著者は、現在、貴重なミニコミ誌「戦争と性」を発行し続けている。



性と暴力のアメリカ 理念先行国家の矛盾と苦悶

鈴木透/著 中央公論新社 2006年9月 882円

現代アメリカの「混乱」は、「性と暴力」に由来している。自由を重んじ、最先端技術を誇る「国」での虐待、妊娠中絶、銃/核行使、環境差別。これほど理念先行で矛盾だらけの国はないのではないか。21世紀の世界の行方を握るアメリカに対して、「変換することが良いことだ」というメッセージを国際社会が伝えなくてはいけないと著者は。

ガイサンシーとその姉妹たち

班忠義/著 梨の木舎 2006年9月 2940円
中国・山西省で著者が知ることになった蓋山西(ガイサンシー)。日本軍に最初に連行され、一番ひどい仕打ちをうけた元日本軍「慰安婦」の一人だといふ。それから10年、著者は日本軍の性暴力の真相を知ろうと格闘している。

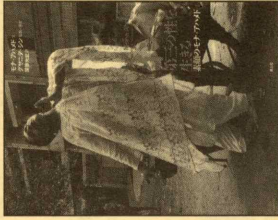


〔セクシュアリティ〕

インド 第三の性を生きる 素顔のモナ・アハメド

モナ・アハメド/文 ダニタ・シン/写真・序文
関根光宏/訳 青土社 2006年7月 2730円

ここでいう「第三の性」とは、「ヒジューラ」として。インドで「神聖でエロチックなおんな男」といわれる両性具有者、特異な女装芸人集団のことである。本書はインド社会でただならぬ雰囲気をつづったもの。インド社会の性的マイノリティの生活の記録が写真と文章で目の前にせまってくる。



性を追う女たち 愛と快感

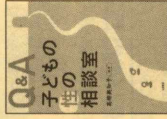
亀山早苗/著 講談社 2006年8月 1470円
女性たちは本音のところで自分の性行動についてどう考えているのか。取材を通して迫っている。

60歳からの豊かな性を生きる

高柳美知子/著 河出書房新社 2006年8月 1470円
高齢者の性の現実とは「21世紀日本社会の性的な内実の最後の秘密」であるかのように扱われていると著者。「高齢者自身が性的に幸福になること」を自覚しようと説く。

Q&A子どもの性の相談室

高柳美知子/編著 大月書店 2006年7月 1680円
1992年から今日まで「しんぶん赤旗」に掲載された「性の相談」の児童期・思春期のものを1冊にまとめたもの。1992年の指導要領改訂で登場した性教育は、早くも2002年の改訂を機にパッシングに遭っている。



ママ、パパおしえて！

高柳美知子/著 子どもの未来社 2006年8月 1365円
ドキッとさせる質問でも、小さな子どもの「?」には、ごまかさずには、あわせて答えよう。その時のために、この本を。

『薔薇族』の人々 その素顔と舞台裏

伊藤文学/著 河出書房新社 2006年7月 2100円
日本最初の同性愛専門雑誌『薔薇族』(1966年～2004年)の編集長が、その舞台裏をつづっている。休刊してしまっった『薔薇族』であるが、なんとか復刊させたいという。



薔薇よ永遠に 薔薇族編集長35年の闘い

伊藤文学/著 九天社 2006年8月 1995円
『薔薇族』の編集長が、雑誌35年の軌跡をたどりつつ、同性愛を語っている。1960年代から「同性愛は異常でも変態でもない」と言い続けてきた雑誌が『薔薇族』。



季刊 セクシュアリティ No.28

“人間と性”教育研究協議会/企画編集 エイデル研究所 2006年10月 1500円

今回の特集は「男子の性～危機から回復へ～」。二極分化、格差が進む今の社会、男性性も歪められていく。これをたすためには、何よりも、「多様性」と「対等平等」の考え方が必要だというのが、企画の趣旨。



女に生まれて男で生きて 女子サッカー元日本代表 エースストライカーと性同一性障害

水間百合子/著 河出書房新社 2006年10月 1365円

女子サッカー元日本代表が性同一性障害であることをカミングアウトした。ここまでの軌跡をつづったのが本書。家族との確執や恋愛のこと、サッカーの



人間発達と性を育む 障害児・者と性

“人間と性”教育研究協議会/編 大月書店 2006年7月 2100円

新版「人間と性」の教育」第6巻は、障害児・者の性について。貴重なこのシリーズも、今巻で完結する。第1章：障害児・者の性教育総論 第2章：子どもの実態や願いに応える性教育実践 第3章：「私と性」を語る 第4章：座談会



ことなど。諦めずに生きてきた軌跡には勇気づけられる。性同一性障害の理解も進むだろう。

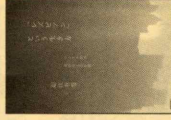
エイズ教育のこれから 龍平から子どもたちに伝えたいこと

川田龍平/著 日本標準 2006年10月 630円
薬害エイズ裁判原告川田龍平の小学生に向けた講演の記録が冊子になった。日本のエイズ教育の状況や未来を創る子どもたちに伝えたいことが、平易に書かれている。



「レズビアン」という生き方 キリスト教の異性愛主義を問う

堀江有里/著 新教出版社 2006年9月 2310円
レズビアンであることを引き受けること、カミングアウトし続けること、目の前の差別を拒否し続けること、キリスト教に留まること、この4つが重なったところ立ち続ける著者が、自らの生き方をひとつひとつ問い返していく。真摯な生き方に心を打たれる。



●カレンダー

『姉妹たちよ 女の暦2007』

女の暦編集室編集 ジョジョ企画発行 1600円

毎年、12年の女たちを紹介する月めくりのカレンダー
道を拓いてくれた先輩の女たちへ、「愛と感謝をこめて」毎年編まれている。この季節のプレゼントにも最適



●手帳

『OK2007 おんなのかいらく』

ノート2007編集室
ジョジョ企画 編集 1575円



●手帳 『WOMAN2007』

WOMEN'S DIARY PROJECT
編集制作 発行 1575円



ノーベル平和賞関連本

『グラミン銀行を知っていますか』

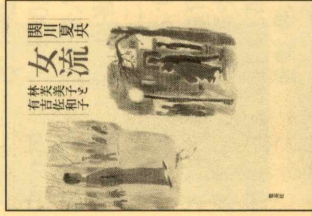
貧困女性の開発と自立支援
坪井ひろみ著 東洋経済新報社 2006年2月 1890円

グラミン銀行創設者・総裁のムハメド・ユヌス博士がノーベル平和賞を受賞。本書では、従来の金融の考え方を180度転換した「社会事業としての銀行」を紹介している。



〔文学・エッセイ・芸術〕

女流 林芙美子と有吉佐和子



関川夏央/著
集英社 2006年9月 1890円
ここでの「女流」とは、才能があり個性的で、生命力あふれ、それがゆえに(?)後進ギアを持たない女性作家のこと。著者にとって「女流」とは、林芙美子と有吉佐和子だという。二人の先輩作家に対する強い関心と愛惜の情があふれんばかりの「女流」論である。

韓流 サブカルチュアと女性



水田宗子 長谷川哲 北田幸恵/編
至文堂 2006年9月 2500円
「冬ソナ」「チャングムの誓い」など韓流ブームを担う話題作をジェンダーの視点で読み解いている。中高年女性のブームとして揶揄的に扱われることもあるが、本書はこのブームに、日本の現代社会への根源的な問いかけを読み取っている。

ジェンダーで読む韓流＞文化の現在

城西国際大学ジェンダー・女性学研究所/編
現代書館 2006年8月 1575円
韓流ブームをまきおこした「冬のソナタ」現象は、戯画化して報道される傾向も見られたが、この現象は、実は、アジア文化に能動的にコミットメントする新たな女性層の出現を示しているという。城西国際大学で開催されたシンポジウムの記録が掲載されている。

男女の怪

養老孟司 阿川佐和子/著 大和書房 2006年6月 1470円
養老孟司と阿川佐和子の対談集。

攻めの人生を生きる

大久保さわ子/著 教育史料出版会 2006年6月 1680円
小学校教諭をふり出しに、労働基準監督官、市議会・県会議員などの仕事を歴任、どくふれん(独身婦人連盟)の代表でもある著者が書きためてきた文章を収録。男女平等をひたすら求め続けてきた姿がうかがいあがる。

女人蛇体 偏愛の江戸怪談史

堤邦彦/著 角川書店 2006年6月 2835円
不幸な恋の結末として女性が蛇に化身し、逃げる男に迫りすが「女人蛇体」の物語。女の執念の現れとされるこの表現は、どのような文化背景で出てきたのか。

すみれ日和 職業病も乳がんもパーキンソン病も友だちにして

望月すみ江/著 教育史料出版会 2006年8月 1575円
20年以上にわたる職業病闘争を経て、今は女性ユニオンの東京執行委員長をしている著者の記録。乳がんやパーキンソン病に侵されながら、なおかつ前向きに闘い続けたエネルギーに圧倒される。

ミス&ミセス

阿部川キネコ/著 双葉社 2006年8月 680円
独身イラストレーター。いわゆる「負け組」と「勝ち組」なのだが、ずっと仲良し。本書はどっちが勝ちでどっちが負けでもない、それぞれの人生をしっかりと生きている2人を描いたコミック。



ワールド・ベースボール・ガールズ やりたいことを見つけた少女たちのベースボール

長谷川晶一/著 主婦の友社 2006年8月 1300円
男性のスポーツだった硬式野球に女子高校生たちが挑んだ。やりたいことに全力でとりくんでいる。うらやましくなる。



山田風太郎育児日記

山田風太郎/著 朝日新聞社 2006年7月 2100円
破天荒な作家として知られ、5年前に没した山田風太郎は娘が結婚する時、一冊の育児日記を手渡したという。風太郎の愛情いっぱいの側面が、そのまま伝わってくる。

おじいちゃんの出番！ 絵本で楽しむ孫育て

草谷桂子/著 大月書店 2006年9月 1575円
家庭文庫を主宰して25年。絵本「ジェンダーフリーってなあに」の作者でもある著者が、「おじいちゃん」と孫が一緒に楽しめる本の視点で絵本を紹介。気軽に読める笑える本、ロングセラー本などなど。巻末に、絵本を読むコツ10カ条とテーマ別絵本リストがついている。

女はみんなヴィーナス

星野ひかり/著 新風舎 2006年8月 1103円
60才で乳ガンになった著者の体験をもとに書かれた闘病小説。

愛にはじまる ダウン症の女流書家と母の20年

金澤泰子/文 金澤翔子/書
ピジネス社 2006年7月 1365円
ダウン症として生まれた翔子ちゃんに、書道家の母は、5才の時から書を教えた。20才になった翔子ちゃんは、幼い子どもたちに見る書を教えるまでに成長した。掲載されている翔子ちゃんの書を見ると、その自由奔放さに、圧倒されるはず。

チョッちゃんは、もうじき100歳

黒柳朝/著 黒柳徹子/聞き手
主婦と生活社 2006年9月 1365円
NHK連続テレビ小説「チョッちゃんがいくわよ」の黒柳朝(チョッちゃん)に娘の黒柳徹子さんがインタビュ。驚いたことに母娘対談は初めてだという。朝さんは、この本の出版直前、96歳を目前にして亡くなった。

Dearキウチさん ブルーテント村とチョココレート

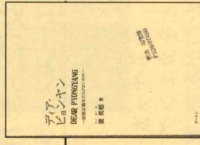
いちむらみさこ/文 絵 キョートツト出版 2006年9月 1260円
公園の森の中のブルーテント村に住んだ著者は、キウチさんと出会った。ブルーテント村の人々は魅力的で、暮らしては豊か。

三ギニー 戦争と女性

ヴァー・ジニア・ウルフ/著 出淵敬子/訳
みすず書房 2006年8月 2940円
ヴァー・ジニア・ウルフが56歳の時に世に送り出した「戦争と女性」をめぐるエッセイ評論集。

ディア・ピョンヤン 家族は離れたらアカンのや

梁英姫/著 アートン 2006年8月 1680円
北朝鮮籍を持つ在日のラジオパーソナリティのエッセイ。父は「総連の働き手」。北朝鮮出身の在日家庭の様子の一端が描かれている。みな、たくましく生きている。



文藝ガーリッシュ 素敵な本に選ばれたくて。

千野帽子/著 河出書房新社 2006年10月 1680円

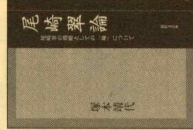
題名「文藝ガーリッシュ」とは、著者によると「志は高く心は狭い文化系小娘のためのジャンル」。要するに、「女子ふう文芸」のことなのだが、著者は、この「女子ふう」にずいぶんこだわっている。文学少女にとっても不動の定番、尾崎翠や森茉莉から、今は読まれなくなった小説、獅子文六らの傑作、21世紀の矢川澄子などの作品まで、「文藝ガーリッシュ」というジャンルのセレクトショップのような本が出ました。



尾崎翠論 尾崎翠の戦略としての「妹」について

塚本靖代/著 近代文芸社
2006年10月 1575円

女性を中心にしても今も人気が高い尾崎翠。その生涯や作品を家父長制下の「妹」という存在



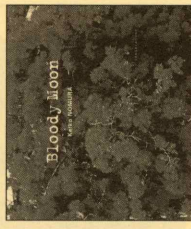
長制が少女に押しつける妻でも母でもない「存在」・・・をキーワードに分析している。著者の修士論文に自身が加筆、修正。しかし、著者自身は29才の若さで病に倒れた。尾崎翠と著者との、伸ばしきれなかった女性の才能の輝きを本書に見る。

心ゆたかな四季ごよみ

吉沢久子/著 集英社 2006年10月 1680円
吉沢久子の最新エッセイ集。身近におこる味わい深い日々のお出立事をつづっている。

Bloody Moon うまれるまえ

たひかり
Keiko NOMURA/著 冬青社
2006年9月 3360円
南インド、ハワイ、沖縄、奄美等の島々でとった女性たちの接写と様々な風景。



【女性史・歴史】

チマ・チョゴリ制服の民族誌 その誕生と朝鮮学校の女性たち

韓東賢/著 双風舎 2006年6月 2310円

チマ・チョゴリとは朝鮮学校で女生徒のみに義務づけられた制服。しかし、韓国や北朝鮮の両国にあるものではないし、民族性や伝統、祖国志向、女性差別といった図式化された解釈だけで説明できるものでもないようだ。



本書は、(多分)日本で初めての本格的なチマ・チョゴリ研究書。

少女の記録、あの頃

川島敦子/著 講談社 2006年8月 1785円

1935年から1945年8月15日に至る日々をつづった少女の日記。最後の章は、長じてからの著者が遭遇した、ニューヨーク9・11の記述でおわっている。現在米国内で教鞭をとる著者の平和への願いは、強い。



女たちの会津戦争

星亮一/著 平凡社 2006年7月 819円

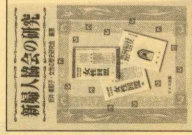
会津戦争や敗戦後の下北移住で凄絶に闘い、死んでいった会津藩の女性たちの姿が、生き生きと描かれている。

新婦人協会の研究

折井美耶子・女性の歴史研究会/編著

ドメス出版 2006年5月 3675円

平塚らいてうが設立した「新婦人協会」について、歴史的意義や活動状況、財政問題、新聞報道などの各方面から考察している。地味だが着実な研究書。



古代・中世のイエと女性 家族の理論

明石一紀/著 校倉書房 2006年9月 3990円
日本古代の家族親族論、女性史に関する著者の論文集。第一部：家族の理論、第二部：イエの起源をめぐって、第三部：原始・古代の女性像と喪礼



ミッシン・スクール あこがれの園

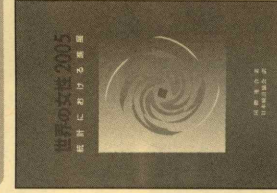
佐藤八寿子/著 中央公論新社 2006年9月 798円
「排外」と「排外」、日本におけるミッシン・スクールの位置づけは、これだという。耶蘇教の学校、敵国校と忌避されつつ皇后、皇太子妃を続けて出してきた日本のミッシン・スクールは、世界的にみて、特異な存在だとも。

朝末き頃 時代を紡いだ信州の女性たち

小林朋子/著 信濃毎日新聞社 2006年7月 1680円
家制度のもと、女性が妻・嫁・母としてしか生きられなかった時代、信州の地にあって、時代の制約を受けながらも自分の生きようとして挑んだ女性たちの姿を、尊敬をこめて11人づつった書。第一章「藤村をめぐる女たち」では、藤村の筆を通じたものとは別の視点からの女性像が描き出されていて興味深い。

【資料】

世界の女性2005 統計における進展



国際連合/著

(財)日本統計協会/訳

(財)日本統計協会

2006年8月 2835円

国際連合が出した「The World's Women 2005, Progress in Statistics」の日本語版。

男女共同参画基本計画(第2次)

内閣府男女共同参画局/編

国立印刷局/発行 2006年8月 800円

今年度から施行された男女共同参画計画が冊子になった。



労働政策研究報告書 No64 仕事と生活の両立・育児介護を中心に

独立行政法人 労働政策研究・研修機構/著

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 2006年5月 1575円

仕事と家庭の両立を可能にする社会システムのあり方について、検討を加え支援策を明らかにするための研究の中間報告。(独)労働政策研究・研修機構の研究である。

〔自伝・評伝〕

金子文子 わたしはわたし自身を生きる

鈴木裕子/編 梨の木舎 2006年8月 2730円



「大逆罪」によって死刑判決を受け、その後恩赦で無期懲役に減刑されるが獄中で縊死した金子文子の手記、調書、歌などを集めたもの。この時代、これほど明確に天皇制と対決できた人がいたとは。「人間への愛と権力への反逆に生きた生」(解説より)だった。没後80年を記念して編まれた。

マーサ・B・エガードの冒険 日本の女子教育・福祉に捧げたアメリカ女性宣教師

青山静子/著 ドメス出版 2006年9月 2625円

昭和初期、佐賀で宣教活動をし、熊本九州ルーテル学院の前身女子学校の設立、発展につくした女性宣教師マーサ・B・エカードの評伝。

オードリー・ヘップバーン 妖精の秘密

ペルトラン・メイエスタブレ/著 藤野邦夫/訳 風媒社 2003年3月 1680円

しばしば「妖精」と形容され、死後10年たっても支持をうけているオードリー・ヘップバーンの評伝。このハリウッドスターの内に秘めた幼児体験や体調不良、結婚生活の負担など。

スターをめぐる「お決まり」の物語であると酷評することは簡単だが、青春時代、「ローマの休日」「マイフェアレディ」「ティファニーで朝食を」等で育ってきた人間にしてみたら、やはり興味深い物語である。



月経をアンネと呼んだ頃 生理用ナプキンはこうして生まれた

田中ひかる/著 ユック舎 2006年7月 1680円



「アンネナプキン」のアンネ社を設立したのは27歳の主婦だった。高度成長期を背景に女性の社会進出を支えたアンネナプキンであったが、類似商品の出現とともに社は傾いていく。その歴史を追っている本。

アンネ社の酒井泰子社長は、ある時期から全く表に姿を現さなくなっているという。

助産婦マサエの生涯

樋口正俊/著 悠飛社 2006年10月 1260円

大正から平成にかけての82年を開業助産婦として活動した樋口マサエの評伝。産科の医者となった長男が書いている。

ロシア初の女性アカデミー総裁 ダーシコワ公爵夫人

中神美砂/著 東洋書店 2006年10月 630円

18世紀、ロシア・ロマノフ王朝第11代皇帝を助け、活躍したダーシコワ公爵夫人の評伝。皇族出身以外の女性として初めて公職につき、「ロシアアカデミー」「科学アカデミー」の指導者となった。

ハンナ・アーレント <生>は一つのナラティヴである

ジュリア・クリスデヴァ/著

松葉祥一 椎名亮輔 勝賀瀬恵子/訳

作品社 2006年8月 3990円

フランスでは、「女性の天才」全三巻の第一巻目として出版されたという。精神分析者、哲学者としても名高く、「女の時間」などの邦訳書もあるクリスデヴァによる、ハンナ・アーレントの評伝。



〔平和・開発・エコロジー〕

スウェーデン 自律社会を生きる人びと

岡沢憲美 中間真一/編

早稲田大学出版部 2006年8月 2940円

高齢福祉社会、エコロジカル、市民社会、男女平等社会、生涯学習など、スウェーデン社会をめぐるキーワードは魅力的だ。

本書は、そうしたスウェーデンの社会制度の裏にある個々の人々の生き方を通して社会の特性をながめている。スウェーデンの人々の生活や意識におけるキーワードは「自律」。



季刊ピープルズプラン 35

ピープルズプラン研究所/発行

現代企画室/発売 2006年8月 1365円

特集は「マルチチュールド/ピープル/プレカリアート-グローバルゼーションに対抗する主体を構築する」。

スウェーデンの持続可能なまちづくり ナチュラル・ステップが導くコミュニティ改革

サラ・ジェームス&トルビョーン・ランティエー/著

高見幸子/監訳・編著 伊波美智子/解説

新評論 2006年9月 2625円

スウェーデンの持続可能なまちづくりに学ぶ、過疎化、少子化、財政赤字の解消方法。

ちよつとヤバイんじゃない? ナショナリズム

高橋哲哉+村井吉敬+姜尚中+辛淑玉+内海愛子+李省展/著

恵泉女学園大学大学院 国際シンポジウム実行委員会/編

解放出版社 2006年10月 1575円

2005年11月に恵泉女学園大学で開催された国際シンポジウム「グローバル化の中の国家・国境・ナショナリズムそして人権」の記録。新政権が発足します「ヤバク」なっている感のある今こそ、どうぞ。



暮らしのさじ加減 ていねいでゆっくりな自分にちよっどいい生活

金子由紀子/著 リヨン社 2006年10月 1365円

「忙しい」というのは「心を亡くす」こと。忙しさにまけて切り捨ててしまったものに、時には思いをめぐらせてみよう。

〔雑誌〕

共同参画21 No.26

内閣府/編

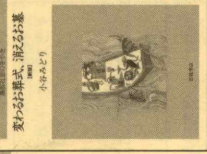
ぎょうせい 2006年9月 600円

特集1「東アジアにおけるジェンダーの平等を目指して」 特集2「女性のチャレンジ賞・支援賞・特別部門賞」



〔高齢・福祉〕

変わるお葬式、消えるお墓(新版)



小谷みどり/著 岩波書店
2006年8月 1785円

この数年で、お葬式のあり方が、またまた大きく変わっているようだ。そんな最新の事情をおりこみつつ、多様になったお葬式のあり方を考えている。

エイジフリー社会

清家篤/編 (財)社会経済生産性本部
2006年7月 2100円
エイジフリー社会とは、「年令を基準としない社会」のこと。「個人の年令によって活動や選択が一律に阻害されない社会」のことである。本書で扱っているのは、そうしたエイジフリー社会実現のための、雇用制度や社会保障、再分配政策のあり方。

出口のない家 警備員が見た特別養護老人ホームの夜と昼

小笠原和彦/著 現代書館 2006年7月 1995円
老人ホーム警備員のルポ。老人が老人ホームから出られるのは、亡くなったときだけだという意味で「出口のない家」なのだという。

高齢者虐待に挑む 発見、介入、予防の視点

高齢者虐待防止研究会/編 中央法規 2006年7月 2940円
高齢者虐待の実態を理解し、対処と予防、取り組みについて説明している。2006年4月施行の高齢者虐待防止法の解説もついている。

離れて暮らす親のケア

太田差恵子/著 七つ森書館 2006年9月 1680円
老親と離れて暮らす時の日常の暮らしや介護、お金のことなど、気になることについて、項目別にアドバイス。親と子が、それぞれ自立して暮らせるように。

わかってあげよう介護以前の親の心と体

下中順子/著 家の光協会 2006年9月 1365円
年離れた親とのつきあい方を学んでおこう。

はじめの一步 セカンドライフを考えたらこの一冊

岡田良則/著 自由国民社 2006年9月 1575円
定年後のライフプラン、年金、継続雇用、税金などについての情報が掲載されている。

親の入院・介護に直面したら読む本

長岡美代/著 実務教育出版 2006年8月 1575円

祖母力



樋口恵子/著 新水社
2006年9月 1575円

高齢社会の現状を踏まえ、「これからの祖母世代が働く娘や嫁を支えて孫育ての役割をどのように果たしていくか」が考察されている。

親が病気で倒れた時や介護が必要になった時、いざとなるとあらわてしまう。そんな時に限って必要な情報がなかなか手に入らないもの。本書でポイントをおさえてみよう。

メモリーケア 認知症をめぐる177のものがたり

コムスンプレス/編 コムスンプレス/発行
星雲社/発売 2006年8月 1260円
題名の「メモリーケア」とは「認知症になった人の現在持っている能力、潜在能力を最大限引き出すケア」のこと。グループホーム「コムスンはばえみ」入居者の家族やスタッフの体験談と10人の専門家による考察・提案で構成されている。

精いっぱい「自立」、さげない「支援」 人口減社会を生き抜き知恵

小谷直道/著 中央法規 2006年9月 1680円
読売新聞論説委員として長年社会保障を論じてきた著者が、「自立」「支援」について、自由につづっている。「福祉は文化だ」と。

老年期うつ 見逃されやすいお年寄りの心

高橋祥友/著 講談社 2006年9月 1470円
うつ病患者のサポーターはほとんどが家族に頼っており、社会の支援は不十分。特に老年期のそれは、認知症と間違われがちという。事前の予防法を、と著者。

両親と祖母の家をつくる くうねるところすむところ 子どもたちに伝えたい家の本

井上揺子/著 インデックスコミュニケーションズ
2006年8月 1890円

おばあちゃんや両親が長年住んできた家を立て直すことになった。「任された」建築家でもある著者は、「思い出」をキーワードに、両親と祖母の家づくりを考える。



家族介護 この究極のドラマ

大沢周子/著 講談社 2006年10月 1575円
ある人は激しく、ある人はなだらかに、・老いの姿は、本当に千差万別、介護の状況も異なる。「究極のドラマ」である家族介護の姿5つを取材。物語形式でつづっている。

〔絵本・子ども・青少年〕

小林カヅ代の いただきますすごちそうさま



小林カヅ代/著 小林カヅ代キッチンスタジオ/編
合同出版 2006年10月 1365円
台所の話から、旬の野菜や果物のこと、食器の並べ方や洗い方、小麦粉の話など、イラストと写真と文で、楽しく学べるようになっていく。「食育の絵本」といっていいのだろうか。最後には一番大切な平和の話も。

仕事ってなに? 仕事の絵本1



岩川直樹/文 後藤範行/絵
大月書店 2006年10月 1890円
子どもたちが、仕事について豊かなイメージを持てるようにと企画されたシリーズの第一巻。「お金を稼ぐ仕事」ではなく「生きがいとしての仕事」を考えてほしいと。

ママにあかちゃんができるたの!

ケス・グレイ/文 サラ・ネイラー/絵 もとしたいずみ/訳
講談社 2006年6月 1680円
ママのおなかで大きくなっていくあかちゃんを、おねえちゃんがレポートします。

ピリカ、おかあさんへの旅

越智典子/文 沢田としき/絵
福音館書店 2006年7月 1785円
さけのピリカが、困難を乗り越えてたまたまご産ままでの物語。

ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

<単発もの>

■「女性国際戦犯法廷のすべてー「慰安婦」被害と加害責任ー」

女たちの戦争と平和資料館 2006年4月 2100円
第1回特別展(2005年8月1日～2005年11月20日)
の展示内容を再現したカテゴリー。開廷、起訴、証言、判決と「女性国際戦犯法廷」の年表や教科書記述の変遷、国内の「慰安婦」裁判をまとめた表など、貴重なデータ満載の全頁フルカラー80ページ。

■「指定管理者になっちゃった」

特定非営利活動法人 北摂こども文化協会 2006年9月 800円

■「認知症を早期でくいとめよう! 認知症予防教室を増やすために シンポジウムの記録」

NPO法人 認知症予防ネット編 2006年9月 1050円

■「誰も書かなかったヘルパー読本～あなたも輝いて～精神障害者編」

特定非営利活動法人 ほのぼのステーション 2006年6月 840円

■「モラル・ハラスメント 外から見ても分りにくい心への暴力」

こころのサポートセンター・ウィズ 2004年11月 1050円

■CD「イラスト・カット集 生活の中でみる男(ひと)と女(ひと)」

越前市男女共同参画センター「あんだんて」
2006年10月 1000円

性別役割分担の固定化や男女の主従関係を示す表現を選び、男女間のバランスに配慮したイラスト・カットを掲載したCDが作成された。イラスト作成:平野秀明、イラスト・カット数:155点 データ形式:JEPG&BMP



■「モラル・ハラスメント～第三者としてのわたし～」

こころのサポートセンター・ウィズ 2005年10月 1050円

■DVD「職場における間接差別は、今」

ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク 2006年7月 525円

■DVD「おんなのさくひん What a woman made」

出光真子 2005年7月 7245円

■CD・ビデオ「シンディ・シ・ハン 母の日のメッセージ 20分」

(有)マブイ・シ・ネコブ 2006年 共に2800円



<シリーズもの>

■「あなたとわたしと性」 79号 「障害者自立支援法」は、どう展開されたか? 性を語る会 2006年9月 315円

■「季刊j・MA」 第24号 ビススクドールに魅せられて いま編集部 2006年10月 480円

■「女たちの21世紀」 No.47 特集:能力主義で「女性の自立」は可能か? 「再・チャレンジ」支援策を問う アジア女性資料センター 2006年8月 1260円

■「女のためのクニックニュース」 No.256 まつしま病院に行ってきた! 257 性・セックスについて語りましょう/ 258 「代理出産」どう考える? <どの号も女と健康フェスティバル報告あり> ウィメンズセンター大阪 2006年8・9・10月 420円

■「教育大阪 Vivo la Vital」 660号 子どもの本のいい関係1/ 661号 子どもの本のいい関係2/ 662号 親同士のコミュニケーション (財)大阪市教育振興公社 2006年9・10・11月 350円

■「くらしと教育をつなぐWe」 144号 特集:スロワークで社会を変える フェミックス 2006年10・11月 800円

■「Green Letter」 VOL.43 インタビュー 「軽度認知症の高齢者と共に」 高松泰子 大阪心のサポートセンター 2006年10月 525円

■「強姦救援センターニュース」 No.62 電話相談を受けて 顔見知りによる被害と謝罪の要求 東京・強姦救援センター 2006年10月 105円

■「里の家だより」 No.63 第25回日本思春期学会・学会集会の七不思議/ 「絵本春夏秋冬」17号(採み込み) 福沢利子の絵本の世界 里の家編集スタッフ・里の家絵本の部屋 2006年10月 315円

■「SEAねっと」 No.12 2006年度の発表! / No.13 2006年度総会開催! NPO法人SEAN (シーン) 2006年5・9月 210円

■「消費者情報」 No.374 特集:あふれる食情報/ No.375 「さいごのさようなら」納得のいく葬儀がしたい/ 40周年記念号 (財)関西消費者協会40年のあゆみ 近未来の暮らしを語るこの10年の消費問題 (財)関西消費者協会 2006年9・10月 500円

■「女性空間」 23号 特集:ジェンダーと人権

日仏女性資料センター (日仏女性研究学会) 2006年6月 1575円
■「シネマ・ジャーナル」 Vol.68 親愛的張國榮 夢見た日々を忘れない レズリー・チャン生誕50周年特集

デス企画 2006年8月 800円

■「職場の人権」 42号 ある私立大学の雇用差別と労働強化ー使い捨てられる大学教職員ー 研究会「職場の人権」 2006年9月 840円

■「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 NEWS」 Vol.3 児童扶養手当削減反対の書名活動を開始! / 設立記念パーティの報告 NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 2006年8月 420円

■「女性史学」 第16号 中世の出産ー着帯・介添え・産職を視座としてー 加藤美恵子 女性史総合研究会 2006年7月 1575円

■「女性と仕事ジャーナル」 No.15 女性顧客の多い会社の女性飛躍! 資生堂&大丸の場合、「間接差別」またもや次回へ。第2次改正均等法のポイント 女性と仕事研究所 2006年8月 1200円

■「女性ライフサイクル研究」 第16号 特集:生き抜く力を育む

女性ライフサイクル(FLC)研究所 2006年11月 1050円

■「世界女性会議 ネットニュース」 No.60 いまこそいねんげんダー平等ーいねんげん! そんなバッシングー報告/ No.61 第四回情報会議報告 世界女性会議ネットワーク関西 2006年9・11月 630円

■「それゆけ女たち」 No.157 連載「セクハラ裁判の陳述書から」/ 158・159 ミーディング報告 ジェンダーフリー叩きって何なのさ ほか セクシャルハラスメントと労働組合はあがる 2006年9・10・11月 210円

■「日本ジェンダー研究」 第9号 (論文)日本の伝統文化の本質に關する考察 ほか 日本ジェンダー学会 2006年9月 1050円

■「ひとりから」 第31号 九条改悪を許さない ひとり九条の会会員メッセージ 編集室ふたりから 2006年9月 1050円

■「フアイト・バック」 Vol.67 サバイバーからの手紙(8)監禁事件の報道から感じること 性暴力を許さない女の会 2006年10月 525円
■「フェミニストカウセリング学会全国大会終わる/ No.54 2006年フェミニストカウセリング学会全国大会終わる/ No.55 地域アンケートへの協力ありがとうございませう

日本フェミニストカウセリング学会 2006年7・10月 315円
■「Voice」 第163号 12/22 婚外子差別撤廃、つくれ住民票裁判へ 次回で結審(弁論終結)に

なくそう戸籍と婚外子差別、交流会 2006年9・10月合併 210円

■「VOICE OF WOMEN」 No.274 8月例会「天皇制とフェミニズム」報告、11月例会「館長雇い止め・バックラッシュ裁判」について/ No.275 プレカリアート哀歌ー第1章ー/ No.276 プレカリアート哀歌ー第1章ー (2) 日本女性学研究会 2006年9・10・11月 158円

■「VOICE OF WOMEN」 No.274 8月例会「天皇制とフェミニズム」報告、11月例会「館長雇い止め・バックラッシュ裁判」について/ No.275 プレカリアート哀歌ー第1章ー/ No.276 プレカリアート哀歌ー第1章ー (2) 日本女性学研究会 2006年9・10・11月 158円
■「月刊むすぶ」 No.427 2006年8月15日記憶の内戦が始まった/ No.428 水俣病50年・第2弾! / No.429 民主主義は知ること、参加すること、行動すること 滋賀県知事選挙その後

ロシナンテ社 2006年8・9・10月 840円

■「れ組通信」 No.228 「愛と性」に関する回顧/ No.229 回想・ウーマンズランドへの旅 れ組スタジオ・東京 2006年9・11月 525円

■「女(わたし)のからだから」 No.247 人クローン胚研究に対するSOSHIREN意見書/ No.248 女(わたし)のからだから合宿2006直前準備号/ No.249 近頃の「代理出産」をめぐる報道に物申す SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2006年9・10・11月 315円

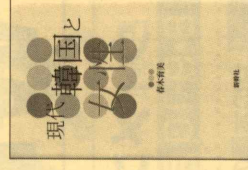
編集長の著者インタビュー

現代韓国と女性

春木育美著 新幹社 2006年7月 2100円
男女雇用平等法、女性発展基本法、性暴力特別法の制定、女性議員の飛躍的増加や落選運動、戸主制廃止などなど、最近の韓国の女性政策、女性運動の展開には目を見張るものがある。それはなぜか、韓国の女性たちはどう動いたのか、日本と比較してどうなのか、今後、どう進むのか。

誰もが知りたくなるこうした疑問に、的確に、かつわかり易く答えてくれる本が出版された。

本書を読むと、軍事政権から文民政権へ、さらに野党政権へと激動したこの十数年の政治経済状況の変化と、それを背景に進んできた女性政策の状況が、すっきり整理された



状態で頭にインプットされる。それとともに、家長的家族制度の残滓、急速な少子高齢化などの共通の課題をかかえる韓国、日本の女性運動が交流していく意義も、十分に理解できる。

「靖国」に代表される政治的緊張と「韓流ブーム」が並存する今の日韓関係。研究分野での交流も進んでいる。「近くて遠い国」から「近くて近い国」になりつつあるわけであるが、しかし、その割には、韓国の女性政策、女性運動を分かり易く論じ、韓国の女性運動の交流を図ろうとする「確かな入門書」は、見られなかった。その意味で、待望の書の出現である。(M)

著者インタビュー 第23回

『現代韓国と女性』の著者

春木育美さんに聞く

慶應大学大学院研究員 (PD)



— 今のような韓流ブームが起こる前の韓国への留学ですよね。留学先として、韓国を選ばれ、ご自分の専攻にまでされたのは、なにが影響しているのですか？

春木 学生時代にドイツに短期留学したのですが、その時に出会った韓国人の学生との交流がきっかけになりました。小さい時から、家にあった太平洋戦争や日本の戦争責任に関する書物に接していて、漠然と、日本人である私は韓国人や中国人から嫌われるだろうと思っていたいました。でも、ドイツで出会った韓国人は、私に対しフレンドリーで情に厚く、戸惑いと驚きの中で、一気に韓国への関心が高まりました。

韓国に留学した当時は、民主化の熱気のもと、韓国の女性関連政策が大きく動いていた時期で、大変興味深い経験をするともに大きな刺激を受けました。また、身近な人々が次々に新しい運動を展開する様を、リアルタイムで体験することができました。

— 韓国の女性運動がこれほどエネルギーシユなのは、何なのでしょ。

春木 やはり、民主化運動の影響が大きいのではないのでしょうか。軍事政権と対峙していく中で、女性運動は広汎なグループ

や他分野の運動と連携する必要がありました。また、民主化運動をしてきた女性たちが、政権の中核に入って政策形成にコミットすることにより、女性政策の制度的保障は大きく進展しました。

— 韓国には、バックラッシュはないのですか？

春木 大きい揺り戻しは、ないです。人権を確立しようという全体的方針に逆らうことは難しいという雰囲気があります。しかし、急激な女性政策の進展ですし、政権交代の可能性もありますから、これからどうなるかは、わかりません。

— 韓国の女性運動や女性政策が抱える課題は？

春木 法制度の枠組みは整ってしまいましたが、有効に機能しているものばかりではありません。活動家が政権にコミットすることとトップダウン式に決まっていた政策も少なくなく、韓国では、まだ草の根の運動が不足しています。制度を実質的に支えるのは人々の意識なのですが、それがまだ制度についていていません。韓国の女性は、高学歴になるほど結婚後は仕事に就かない傾向があるのですが、「働く意欲」が薄いのではないかと感じるときもあります。運動がソウルに集中しているのも、課題でしょう。

— 逆に、日本の女性運動が韓国に学ぶべき点も多いのでは？

春木 韓国の女性運動の特徴は、長い年月をかけて培ってきた人的ネットワークや運動ノウハウを活用し、他分野の市民運動団体との連携によってダイナミックな運動を展開できる点だと思っています。また企画力に優れ、時には、奇抜なパフォーマンスやイベントを通じて、マス・メディアにアピールします。こうした手法には、学ぶべき点があるのではないかと思います。(聞き手：森屋裕子)

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

おたより

いろいろ見えてくる女のミニコミ『マイマイ族』が50号到達！

田中角栄ロッキード裁判が世間の注目を浴びた1984年、旧「新潟三区」で創刊のミニコミ誌『マイマイ族』が、通算50号になりました。当時、地元ではタブーだった田中家の話題も、歳月とともに取り上げる機会が増えています。

1990年からは「東京-新潟 二極編集」で女性が「自分の体験を自分の言葉で語る」スタイルを取り、特集内容に沿って10人程度に依頼して書いてもらいます。人間関係、ライフワーク、仕事、病気など、テーマは毎回多様です。連載もいろいろ。最近連載開始の20代は、心臓疾患のあるダウン症の息子との日々を記録します。また、2億円の連帯借金で自己破産した40歳女性の長期連載も、評判です。執筆者の年代は、20代から70代まで。他に、イラストページや猫新聞「ねこまんま」(通算40号！)など。

50号到達記念号(増ページ)の特集テーマは、「女が統ける」。気合いが入っています。

1部300円(バックナンバーもすべて同じ) / 送料込460円

B5判 52ページ(50号の奥付:2006年11月4日) 年2回、1100部発行

鈴木美和子(編集発行人)

〒201-0002 東京都狛江市東野川 4-26-14

03-3489-3979 (T) -0933 (F)

「ウィメンズブックストア ゆう」でも取り扱っています。

ウィメンズブックス

WBからの風

「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスTOP 5 8・9・10月ベストセラーTOP 5

- 1 女の本屋の物語
中西豊子/著 ウィメンズブックスTOP 5 ゆう/発行
ドメス出版/発売 2006年7月 1680円
- 2 壊れる男たち セクハラはなぜ繰り返されるのか
金子雅臣/著 岩波書店 2006年1月 777円
- 3 迷走する両立支援 いま、子どもをもって働くということ
萩原久美子/著
太郎次郎社エディタス 2006年7月 2310円
- 4 Q&A 男女共同参画/ジェンダーフリー・パッシング
バックラッシュへの徹底反論
日本女性学会ジェンダー研究会/編
明石書店 2006年6月 1680円
- 5 「ジェンダー」の危機を超える！
徹底討論！バックラッシュ
若桑みどり 加藤孝一 皆川満寿美 赤石千衣子/編著
青弓社 2006年8月 1680円

女性センター、女性政策課、研究室、図書館向けサービス
リストアアップ、各種配本の迅速手配、
データ管理、コーティングなど

○ 自費出版承ります。ご相談ください。 ○

■ 'ゆう' だより

◎ ちょっと前の話になりますが、今年の8月21日から25日、メキシコシティで「第四回KNOW HOW会議」が開催されたので行ってきました。「KNOW HOW会議」というのは、「女性情報」の発信や構築のノウハウを共有し、ネットワーク化していくという国際会議。女性センター、情報センタ一、図書館関係者、研究者、活動家、ジャーナリスト、出版関係者などが、世界60カ国から約200人、メキシコ国内から約300人集まっていたのでした。

◎ 午前中は各地域代表の基調講演、午後はラウンドテーブル、最終日に地域会合と宣言文採択というスケジュールでしたが、その傍ら、フェミニストブックフェアやフィルム上映、多彩なダンスショーなども開催されました。また、先住民の女性たちに向けての、ITへのアクセス能力開発のためのワークショップもたくさん開かれていました。

◎ 日本からの参加は、巻頭言を書いてくださった尾川洋子さんを含めて7人。「女性情報は力なり」を改めて確認しました。写真は、フェミニストブックフェアの様子です。

◎ 地球の反対側で、志を同じくする沢山の女性たちと時を共有できて、私はとても勇気づけられました。

◎ 今年は四回、ウィメンズブックスを発行することができました。次号は、2007年2月25日発行です。少し早いご挨拶ですが…来年もよいお年をお迎えくださいませ！
(ウィメンズブックス編集長・森屋裕子)

本誌からの無断転載・コピーはお断りします

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費（年度は4月から翌年3月・入会金は不要です）
個人会員 3000円
海外会員・団体会員 3800円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代（消費税込み）を書いてお申ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〈送料〉

個人会員 書籍代（消費税込み）が15000円以上の送料は無料

海外会員・団体会員 書籍代（消費税込み）が15000円未満の送料は上限300円

別途請求をさせていただきます

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jpまでどうぞ

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよそください。次号の締め切りは2007年2月5日です（発行予定日2007年2月25日）

店舗/ウィメンズブックスTOP ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F

電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115

E-mail info@womens-books.jp

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時

土・日・祝：午前11時から午後6時30分

定休日：月曜 ドーンセンター休館日